10 昇降機 Elevators and Escalators

東芝エレベータ（株）

ここ数年前から続いている市況の低迷，製品価格の低下などのなかで，他社に先駆けて発売したマシンルームレスエレベーターSPACEL™（スペーセル™）が順調に市場シェアを伸ばし，累計で5,000台を越えました。当社は，先行メーカーの優位性を生かして，従来の省スペース，省エネルギーに加えて，更なる寸法短縮を重要なポイントとした機種拡大を図っています。

中低速エレベーターの分野では，昇降路縦寸法を更に短縮し，全面適用することで差別化を図りました。また，駅舎用エレベーターでも，既設駅へ設置する場合は，寸法を小さくする必要から，同じくマシンルームレス方式を採用するとともに，設置工事期間を半減できるユニット工法を適用し，また，種々の利用者にも使いやすいユニバーサルデザインを採用しています。

エスカレーターでは，利用する踏段は従来と同じサイズながら，設置する全体幅寸法を最大13％短縮した省スペース化により，既設駅などでの設置の場合は，既設階段の幅を従来型より広く利用することができるようになりました。

取締役上席常務 技術本部長　水口　宏昭

● 駅舎用エレベーター

昇降機ユニット（上階の出入口は背面側にある）
Elevator unit for railway station

駅舎においては，大規模な改修工事を行わずに短期間で設置が完了し，省スペースの昇降機設備が望まれている。

当社は，この要求に対応した，駅舎用エレベーターを開発し，2000年5月に発売を開始した。発売機種は９人乗りと11人乗りで定格速度は45 m/minである。

主な特長は次のとおりである。

(1)　昇降路を複数に分割した各ユニットにエレベーター機器を組込んで搬入するユニット工法を採用し，1週間（従来比50％）でエレベーター工事の完了を可能とした。

(2)　専用機械室を不要とし，省スペースを実現した。業界最小のオーバーヘッド寸法3,000 mm，ピット寸法900 mmとした。

● 狭幅エスカレーター“ NARROW TYPE ”

狭幅エスカレーター
“ NARROW TYPE ” escalator

近年，交通機関でのバリアフリー化が進むなか，鉄道駅舎の既設階段などの限られた場所へ昇降機を設置する需要が増加している。これにこたえるため，幅寸法を短縮した1200形狭幅エスカレーター“ NARROW TYPE ”を商品化した。

主な特長は次のとおりである。

(1)　従来と同一踏段幅とし，同等の輸送力を確保

(2)　エスカレーター全幅を最大210 mm（約13％）短縮

(3)　ピット幅を最大190 mm（約12％）短縮

（いずれも階高6.5 m以下の当社従来比）

初号機を東日本旅客鉄道（株）横浜線古淵駅に2000年11月納入した。